

『 W 』

作：輪島貴史

行き交う人々 流れゆく私は ふと足を止めた
流れを止めた私を 邪魔そうに交わしていくのは 最初だけで
その後は誰もが私を避けて歩いてゆく
私の周りにできた空間は 私と人の距離なのか 人と私の距離なのか
時代の流れに 取り残されたのか

流れを止めると 時間も止まる 私だけを残して
外の世界はチクタクと音を刻み クルクルと針はまわる
人はまわり 流れていく

今まで隣にいた人が 今はあんなに遠い
今すれ違った人も 今はあんなに離れて
交差点の向こうから 誰かが私を見つめている
じっと見ている ただ じっと私を見つめている

多分 私は知っていた ふと足を止めたのは きっと あの人の視線に気づいていたから
あの人は 私みたいに 何かが足りない 心も体も 何かが足りない
私も あの人のみたいに じっと 誰かを見つめていた 足りない何かを探すように

あの人が 私自身なのだと気づいた時 人波は消え 世界は四角に切り取られた
二人の距離が縮っていく だんだんと 空間が無くなっていく

私と あの人が 重なり合った時 私は私になった
私は足りない いつもどこかで何かが足りない だって私だもの
あの人は たくさん持っている それでもきっと 何かが足りない
だって私と同じだもの

あの人は私で 私はあの人の 私が私になった時 世界は広がった
広く 高く 壮大に 綺麗に 美しく 華やかに 世界が広がっていく
あの人が あの人のになった時も きっと世界は広がっていく

行き交う人が笑顔で歩く 子供から大人まで 手をつなぎ
みんな 好きな場所を見ている 好きな人を見つめている
私も好きな場所をみている 好きな人を見つめている
行き交う人々 流れゆく私は ふと足を止めた